

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市民センター		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》	《貸室利用件数》	
	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 1,596,920人（前年度比 95.8%） 令和2年度 1,666,928人 令和元年度 2,640,142人 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 110,686件（前年度比 99.3%） 令和2年度 111,517件 令和元年度 150,246件 	
5 収支の状況	《事業》	《費用》	
	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営管理（施設の使用許可、使用料徴収含む） 生涯学習事業 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 1,970,197千円（1,995,864千円） 施設管理分 1,397,728千円（1,405,554千円） 生涯学習事業分 572,469千円（590,310千円） その他市が負担した費用 25,761千円（30,143千円） 施設管理分 22,065千円（26,151千円） 生涯学習事業分 3,696千円（3,992千円） 	（ ）は前年度決算額
6 利用者の声	《収入》	《実施状況》	
	<ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 123,634千円（125,525千円） その他収入 5,929千円（6,049千円） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年8月24日～9月30日の期間、市民センター利用者に窓口サービスアンケートを実施。 近隣地域団体・学校・関係機関や利用団体等の出席による事業運営懇話会を各市民センターで実施。 	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	市民センターが担うべき役割を職員自ら十分に理解している。 また、事業運営懇話会を各市民センターで開催して地域ニーズの把握に努めるとともに、アンケートや各市民センターに設置した「ご意見・ご要望」箱に寄せられる利用者意見も踏まえながら、PDCAサイクルによる事業の改善に努め、市民センターの目指す「人づくり」「地域づくり」に取り組んだ。	30/30（60館）
II 施設の運営管理体制	協定書、仕様書等に基づき、適切な施設運営がされている。 令和4年3月16日発生の福島県沖地震の災害時には、所管課と密に連絡を取りながら、適切な対応を行った。	30/30（60館）
III 施設・設備の維持管理	日常的な施設の点検に努め、不良箇所の早期発見、修繕し、適切な維持管理を行った。	24/24（53館） 12/12（2館） 18/18、15/15、 14/14、11/11、 4/4（各1館）
IV サービスの質の向上	指定管理者が実施する内部研修のほか、生涯学習支援センターや宮城県等が主催する外部研修の受講を通して、職員の意識向上やスキルアップに取り組んだ。 また、窓口サービスアンケートや事業運営懇話会、「お茶っこサロン」等の開催を通じ、市民ニーズの把握及び地域との顔の見える関係を構築し、サービスの向上に取り組んだ。 施設利用者の事故やケガの対応も適切に行われているほか、新型コロナウイルス感染拡大防止についても、ポスターを作成・掲示して事業参加者に理解と協力を求めるなどの取り組みを行った。	28/28（58館） 26/26（1館） 23/23（1館）

V 施設固有の基準	<p>施設使用許可及び施設使用料徴収については、条例等の規定に基づき適切に行われた。</p> <p>生涯学習事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業の中止や内容変更等を余儀なくされたものの、地域の学習ニーズや課題を把握し講座等を企画・実施するとともに、市民のライフステージに応じた学習機会の提供や誰もが参加しやすい環境づくりに取り組んだ。また、市民による主体的で多様な活動が地域で展開されるよう、サークル活動・市民活動の支援を行うとともに、地域住民や団体同士をつなぐコーディネートにも意欲的に取り組んだ。</p>	<p>17/17 (55館) 10/10 (1館) 7/7 (4館)</p>
-----------	---	--

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》	
<p>●施設管理業務</p> <p>市民センターの利用状況は、利用件数が110,686件、利用人数が1,814,342人（不特定多数の人が来館する催事の参加者含む）であった。大規模改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館及び利用自粛等の影響により、利用件数は前年度より減少したが、利用人数は増加した。市民利用においても大きな事故もなく、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、安心・安全な施設利用の提供ができたと評価している。</p> <p>市民センターの運営について、窓口サービスアンケートでは、全ての項目において「良い」「まあ良い」の合計が99%以上の評価を得た。アンケートや懇話会等で利用者の意見の把握に努め、苦情等については、迅速な対応とともに全館で情報共有を行い、業務改善に生かした。また、市関係部局とも緊密に報告・連絡を行っており、施設運営は適切に進められたと評価している。</p> <p>●生涯学習事業</p> <p>生涯学習事業については、「仙台市市民センター事業要求水準書」の基本的事項を踏まえ、参加者が地域において主体的に活動し、学習成果を発揮できるようになることを意識し、取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により市民の活動も制限される状況の中、感染防止対策を徹底のうえ、人数を減らし密を避けるなど工夫をし、オンラインも活用しながら、市民の学びの支援に努めた。また、財団設立30周年記念事業として開催した「まちづくりフォーラム」では、市民センターで実施した市民参画型事業の事例発表や各館で作成した紹介パネルにより、地域の魅力や市民センター事業について広く市民に知っていただく機会となった。</p> <p>●その他</p> <p>令和4年3月16日発生の福島県沖地震による施設の被害対応についても市所管課と密に連絡・調整を行いながら取り組み、適切に対応できていると評価している。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>窓口サービスアンケートの結果が示すように施設利用者の評価は良好である。</p> <p>施設の維持管理については、各市民センターにおいて施設の状況に応じた管理や安全対策がなされていることに加え、指定管理者全体で年間で約280件の修繕を実施する等、施設の利用に支障のないよう日々確実に業務を行っている。また、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震の際には、所管課と連携し適切な対応を行ったほか、災害時の指定避難所、補助避難所としての役割を担うため、日頃より市の関係課等とも連携し、各種研修会等への参加等により施設管理者としての知識を深め、防災に対する意識向上の取組みを進めていることも評価できる。</p> <p>生涯学習事業に関しては、大規模修繕に伴う休館や、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされた事業もあったことから、要求水準書で定める講座等の企画数及び実施回数の「年間10事業、45回以上」を満たすことができなかつた館もあったが、全館平均では「年間11.0事業、43.8回」と、計55日にわたる利用自粛期間もあった中で、各館における感染対策の徹底と創意工夫により、最大限の事業が実施された。さらに、豊かで魅力的なまちづくりについて共に学び共に考える場として「ひと☆まち まちづくりフォーラム2022～imagination & creation 地域と共に～」を文化センター、児童館と共催して実施するなど、コロナ禍にあっても、市民センターが地域の学びの交流の拠点としての役割を果たし、市民にとって、地域を知り、市民センターを身近に感じてもらうためのきっかけづくりとしたことは評価できる。また、事業運営懇話会や独自の取り組みである「お茶っこサロン」で地域情報やニーズの把握に努めるとともに、活動支援業務については、ボランティアやサークル活動等の支援を行い、地域の人や団体をつなぐコーディネーターとしての役割を果たしたことも評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
